

提出日： 2022 年 10 月 3 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	小林 謙一

研究期間	以下1～4より、取得した研究期間を選択し、該当番号を右欄にて選択してください。	
	1	2022年4月1日～2023年3月31日
	2	2022年9月1日～2023年8月31日
	3	2022年4月1日～2022年9月20日
	4	2022年9月21日～2023年3月31日
活動報告	<p>研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。</p> <p>2022/4～2022/7の期間、UKケンブリッジ大学のマクドナルド考古学研究所に、訪問研究員として在籍し、おもに、同大学考古学科エンリコ・クレマー准教授のエンカウンタープロジェクトでの縄文文化と新石器文化との比較研究のプロジェクトに参画した。エンリコ研究室での院生・研究員らのデータベース作成に協力したほか、集落データベース・年代測定データベースの設計を行った。また、マクドナルド考古学研究所主催の研究会に毎週参加し、地中海新石器考古学・新大陸民族考古学・アフリカ考古学のゼミナーでの討議に参加した。また、イーストアングリア大学・セインズベリー考古学研究所のサイモン・ケスナー教授のNorfolk Later Prehistory project共同研究者として新石器時代・鉄器時代遺跡の調査に参加した。</p> <p>ケンブリッジ周辺で発掘調査を行っているケンブリッジ大学考古学ユニット(CAU)とも共同研究の機会を新たに得たので、数回にわたり、マスト・フォーム遺跡など既存の調査資料から、新石器時代～青銅器時代の土器付着物多数を採取した。今後、年代測定等の分析を予定している。今後も土器付着物についての情報提供を約束いただいております、木材資料についても調査する協議を行った。</p>	
得られた研究成果について	<p>上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。</p> <p>マクドナルド考古学研究所での研究活動により、縄文文化研究としての成果を重ねることができた上に、ヨーロッパの新石器研究との比較検討をおこなうことができた。同時に、海外の研究者から縄文文化研究がどのように位置づけられているかを実地におこなえた。エンリコ研究室やサイモン教授とは、研究協力関係を強めることができ、今後も調査の進展に応じ、年代測定研究など共同研究を進めていく基盤を構築できた。</p> <p>ヨーロッパ先史時代研究へのコミットとして、イングランド東部地域に属する先史遺跡出土試料を採取することができたので、その年代測定・同位体分析を行うことができる。その結果によっては、ストーンサークルの存在などで共通するあり方も指摘されることのある日英の先史時代について、時間的位置づけを明確にし先史文化間の検討を行い得る基盤とする成果となると期待できる。</p>	
今後の計画について	<p>得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。</p> <p>イギリス滞在中に得た知見をもとに、海外からみた縄文文化と国内における縄文文化の位置づけを対比したい。特に、先史時代の年代測定結果を用いた人口動態モデルについて、小林の科研による研究での縄文から弥生文化の文化変化の様相と農耕の発生・普及による人口変動モデルと比較を進める。イギリスで得られた試料を、日本国内の測定機関を用いてAMSおよびIRMSで測定を行う。生業形態や環境の差異、年代対比について精緻に検討し、海洋リザーバー効果の影響の度合いなど埋没状況や地質の差異に基づく比較検討を行う。年代測定成果をUKの協力機関に報告し、中央大学学術誌にその年代的位置付けの報告を示す。私の科研費の研究のうち、国際行動研究推進Bはケンブリッジ大が協力機関であり、エンリコ准教授、サイモン教授、CAUとの共同調査は今後も共同研究として続けていく。</p>	

3